

新歴史の見える風景

福井警察署

福井市大手3丁目10

親しまれた丸味のあるモダンな外観



▲昭和13年5月に竣工した福井警察署

かつての福井警察署跡には現在福井市役所本館が建てられている▶

明治初期の警察は、「邏卒屯所」巡査屯所「警察出張所」と名称を変更しながら整備が進み、明治9年には佐佳枝下町113・114番地に「第九警察出張所」が開設され、翌年に「福井警察署」に改称された。明治14年、福井県発足とともに「福井県福井警察署」となった。明治35年、福井市は「橋北大火」と呼ばれる大火災に見舞われた。中心市街地は焼き尽くされ、三千棟を超える建物が被害にあい、福井警察署も焼失したが、警察署は年末に同じ位置に新築された。その場所は、片町の郵便局から東に入った順化1丁目24街区にあたる。この庁舎はその後、昭和初期まで改修を重ねながら使用されたが、警察業務の増大により移転新築が課題となり、昭和11年ようやく計画が立てられた。場所は福井城址で、松平家より濠を無償で借受け、石垣を崩して埋め立て整地を行い、敷地は360坪、本館は鉄筋コンクリート造り、

MAP



附属設備は木造とされた。当時の福井市役所の東側、現在の福井市役所本館の位置である（旧御屋形町16番地で現大手3丁目10街区）。

新庁舎建設工事を担当したのは、戦後も金沢に本社を置き、幅広く事業を展開した長建設株式会社。当時は「長組」（代表者：長惣右衛門、金沢市玉川13番地）の名称で土木建築業に従事していた。明治中期の創業で、石川県内の公共施設の建築を請け負い、福井市内では裁判所の建築実績がある。新庁舎の落札価格は13万7千円で、昭和12年7月13日に地鎮祭が挙行され、翌年5月に竣工。落成式は6月4日に新庁舎において挙行され、その後、市公会堂で祝賀会が開催されている。

新庁舎本館の正面は丸みをもたせたモダンなデザインの建物で、鉄筋鉄骨コンクリート2階建て延べ面積は約

430坪。1階には署長室をはじめ、警務、会計、防犯、鑑識、交通のほか、記者室、電話交換室などが設けられ、2階には刑事、特高、取り調べの各室のほか会議室も、別館として木造平屋建ての留置場が設置された。この他、当時は消防も警察署の所管で、北側に福井消防事務所と消防自動車格納所が新築されている。

新庁舎落成の協賛行事としては、同年6月1日から15日までだるま屋百貨店で「大警察展覧会」が開催されたほか、市民の新庁舎見学会が6月1日から9日まで開催されている。新庁舎への移転は6月19日で、業務は6月20日に開始された。

この建物は戦災、戦後の震災にも耐えたが、老朽化と狭隘さは年々ひどくなり、昭和47年、郊外の御幸町に移転新築され、警察署は市内中心部から姿を消した。

（文 奥山秀範）



▲新築落成記念絵葉書



▲だるま屋では15日間「警察展覧会」が開催された